

2002.7.31

編集 集行：滋賀県精神保健福祉協会
事務局：滋賀県精神保健福祉協会
〒525-0072 草津市笠山八丁目4番25号
滋賀県立精神保健総合センター一気付
TEL/FAX 077(567) 5250

滋賀県精神保健福祉協会だより



滋賀県精神保健福祉協会会長

大川 匡子

協会活動の 今後の展開に向けて

平成九年六月に滋賀県精神保健福祉協会が発足して今年には六年目になります。昨年一年間の協会活動をふり返って

みますと合同事業として「心の健康を考える講演と広場と映画の一日」の会合を開催し多くの会員と県民の方々が参加しました。講演、映画、施設紹介、作品展示、即売など多彩な内容であり大変楽しく有意義な会であったと思います。

研究調査部会では小冊子「メンタルヘルスのススメ」を配布し心の健康管理、増進の啓発をすすめてきました。また、協会に所属する精神保健福祉に関係する多くの団体や施設の方々はそれぞれの行動を開催し、その内容は協会だよりにも紹介されています。しかし、これまでの協会活動をふり返ってみますと、会員数の増加がないことや事務局員の不足から目的を達成するための活動が十分に行われているとはいえない状況です。

さて、今年度第六回総会が六月二十三日に滋賀県立男女共同参画センターで開かれ、今年度の事業計画が検討さ

れました。そのなかでインターネットのホームページを開設することが決まりました。ホームページを通して協会活動の内容や各団体の活動状況などを公開することは、精神保健福祉に関する知識を広く県民の皆さんに普及啓発することになり、新しい発展が期待されます。さらにホームページを通して全国の精神保健福祉協会と連携し、情報交換が行われることも考えられます。今年度は他にもさまざまな事業が計画されており、会員の皆様が同じ目的を持って、それぞれの立場でご活躍して下さることを願っております。

滋賀県精神保健福祉協会 第六回 総会 報告

平成十四年（二〇〇二年）六月二十三日（日）午後一時半から第六回総会が近江八幡市の県立男女共同参画センターにおいて、約一九九名の出席により開催されました。梅雨空のもと時折

晴れ間がのぞく中、昨年に引き続き視聴覚室において討議されました。

大川会長の挨拶に引き続き、来賓祝辞として県知事（代理宮村健康福祉部長）からご挨拶を頂き、議長に黒澤信吾氏が選出されました。議事として、前川初子滋賀県健康推進連絡協議会長の退任に伴い、新理事として滋賀県精神保健福祉士会長の福島孝一氏が選任されました。続いて例年通りの理事会報告、平成十三年事業報告、決算報告、さらに平成十四年度の活動方針、事業計画、予算が議案として提出され、出席者の方々による熱心な討議のうえ、承認され、六年目の協会がスタートしました。

（湖北地域振興局 佐々木）



ホームヘルプサービスがスタートして

地域生活を支えるために



●講師●
愛知県コロニー発達障害研究所
三田優子先生

愛知県コロニー発達障害研究所の三田優子先生による平成十四年度総会特別講演「ホームヘルプサービスがスタートして」地域生活を支えるために」の報告をさせていただきます。三田先生は、精神障害者、知的障害者の生活支援が専門で、愛知県精神医療審査会の委員、全家連の保健福祉研究所の研究同人もされ、全国的に御活躍されています。

①精神障害者のホームヘルプサービス実現まで（平成七年度）②試行事業から見えた事 ③精神障害者ホームヘルプサービスの研修会を通して参加者が求めていたもの ④市町村の実態 ⑤サービスの中身 ⑥現在の課題 ⑦事例から、という項目で講演して頂きました。

精神障害者のホームヘルプサービス実施以前に、一度でも精神障害者へヘルパーを派遣した事がある市町村は、

全国で約二十二%、大都市では約三十六%（平成九年 全家連調べ）と、大都市では三割を超え、精神障害者へのホームヘルプサービスの必要性がうかがえる数字が出たようです。

平成十四年度からようやく精神障害者のホームヘルプサービスが本格的にスタートしましたが、市町村の実態については、ホームヘルプサービスの体制の未整備（五月の段階で、担当課が未決定という市町村も）、ヘルパー研修の場の不足からくるヘルパー不足、ケアマネジメントの基盤の脆弱さなど、国、都道府県を含めた責任・課題が明らかになりました。

動き出せない理由は、医療・専門機関との連携のまずさ、PR不足、ニーズ把握の遅れ、ヘルパーの絶対数の不足などがありますが、何よりも、国が作成した今年度のホームヘルプサービスの予算が低く、人もお金も制度もない中で実施されている所に大きな問題があるようです。当然、ヘルパーを支える環境も弱く、専門職・機関のヘルパーへの理解・協力が得られず、ヘルパーがケースを抱え込んでしまう事も少なくないそうです。制度自体が未整備のため、関係機関も対応できない事もあります。ヘルパーのバックアップ体制を早急に整備する重要性を話さ

れました。

精神障害者ホームヘルプのサービス内容については、精神障害者が望むサービスは、一時間程度の家事援助と少しのアドバイスなどのため、短時間の上、身体介助に比べ単価が低いので、事業所によっては精神障害者のホームヘルプサービスを敬遠する所もあるようです。一方でアドバイスを重要な援助と位置付けて、身体介助の中の自立支援という項目で高い単価をつけて対応している所もあるようで、地域格差が大きいのが現状だそうです。

事例の紹介では、家族の希望が優先されたサービスが実施され、当事者に不利益が生じたケース、定期的に関わるヘルパーの間接的な力で地域を巻き込み、住民と利用者が変化していったケース、ヘルパーの役割の説明が行われなかったため利用者が混乱し依存が高まったケース、契約時に利用者の希望を確認し、本人のライフスタイルに沿った支援を実施し再入院を防いだケースなどを紹介し、同じ失敗を繰り返さないためにも多くの事例を話し合い、今後の支援に役立てる事が大切だと話されました。

最後に、「保健婦さんは医療を背負ってくる。ワーカーさんは福祉を背負ってくる。でも、ヘルパーさんはね、社会の風を運んでくれるから有り難いんです。」という利用者の言葉を紹介され、今日のお話が滋賀県のホームヘルプサービスの参考になればという言葉を頂いて、特別講演が終了しました。（NPO法人サタデーピア 赤間由記江）

ホームヘルプサービス

甲西町・作業所の取り組み



梅雨の蒸し暑い日が続く七月二日、『さわらび福祉会』の「ワークステーション虹」へ、ホームヘルプサービスの取材に行きました。「ワークステーション虹」は甲賀郡甲西町にある精神障害者共同作業所（無認可）でJR草津線の三雲駅下車、車で約一〇分の緑豊かな所にあります。「ワークステーション虹」の杉江副所長と、甲西町の服部保健師、甲賀地域振興局の田中保健師から、お話を聞く事ができました。精神障害者共同作業所に、ホームヘルプサービスの事業所があるのは珍しいと思われる方も多いと思いますが、

こちらでは作業所開設当初から福祉的就労だけでなく、生活支援にも重点をおかれていました。しかし作業所単独では支援内容も限定される状況でした。一方、甲西町は、ホームヘルプサービス実施にあたって、ヘルパーへのきめ細かい助言や説明が、ホームヘルプ事業所内で速やかに行われ、ヘルパーと密接な連携ができる体制が必要であると考えていました。両者の希望・要望がうまく合致し、精神障害者共同作業所でホームヘルプサービスのモデル事業を実施する流れになりました。

現在、ホームヘルプ事業は、甲西町から「さわらび福祉会」に委託され、「ワークステーション虹」にヘルパー派遣事務所が設置されています。スタッフの体制は、「ワークステーション虹」の所長、副所長、指導員、非常勤がそれぞれ一名です。ヘルパーは二名の嘱託雇用です。モデル事業の対象者は四名（内二名が「ワークステーション虹」のメンバー）で、平成十四年四月からは三名が引き続き利用しています。新規の申請者はまだないとの事です。ホームヘルプサービスを受ける流れとしては、まず甲西町が相談を受け、本人との話し合い後、サービスの選択肢の一つとしてホームヘルプサービスを提供するという流れになります。援助内容は、一時間～一時間半の家事援助が多く、「利用者さんと一緒に」という事を大切にし、精神障害の特性を考慮して、同じヘルパーが継続して関わる配慮もされていました。スタッフやヘルパーの体制や当事者

へのPRの方法など、課題もいくつか話されましたが、県と町と社会復帰施設それぞれお互いの顔がよく見えてしつかりと連携がとれている様子で、何事も前向きな姿勢で取り組んでいるという印象を受けました。

最後に、「ホームヘルプサービスをきつかけに、『ワークステーション虹』が地域の拠点になって精神障害者へのサービスを広げ、豊かな暮らしへの支援をしていきたい」という、杉江副所長の言葉を紹介して締めくくりたいと思います。取材に協力してくださった、田中保健師、服部保健師、杉江副所長、本当にありがとうございます。（NPO法人サターデピア 赤間由記江）



滋賀県精神科診療所協会講演会

「高機能広汎性発達障害をめぐる最近の話題」報告

二〇〇二年六月二十九日にホテルボストンプラザ草津にて滋賀県精神神経科診療所協会講演会が開かれました。あいち小児医療保健総合センター・保健センター長の杉山登志郎先生の「高機能広汎性発達障害をめぐる最近の話題」という講演をお伺いする機会に恵まれました。テーマが小児発達に関

連した疾患であり、その対応が難しいことから、県下でご活躍中の精神科の先生方の他、学校の先生方、作業所職員の方々も多数参加されその関心の高さ・包括的な対応の必要性を改めて感じさせる会となりました。

高機能広汎性発達障害は、最近マスメディアにおいて取り上げられる事も多く、社会的関心を集める疾患の一つとなつていますが、その実態は今も研究中という側面も多く十分な理解が浸透しているとはいえません。本講演はそのような社会背景の中、第一線で活躍されている杉山先生からお話を伺える大変貴重なものでした。ご講演は高機能広汎性発達障害の中でも最近話題を集め、他の精神疾患との鑑別においても重要であるアスペルガー症候群を中心に自閉症やその他の精神疾患を交えたものでした。

広汎性発達障害は、最近の調査によりこれまで考えられてきたよりも多く存在することが分かってきており、潜在する患児の多さ及び患児の増加に注目すべきであると指摘されました。実際に分裂病質人格障害と診断されている症例の中にも、かなりの割合でアスペルガー症候群が存在していると指摘され、臨床家としてアスペルガー症候群等の高機能広汎性発達障害を念頭に鑑別診断を進めることの重要性を強調されました。

印象的であったのは、アスペルガー症候群と診断された小児が適切な環境と対応により社会機能に問題のない成人に成長したという症例の紹介でした。

アスペルガー症候群では知能が比較的高く言語機能も良いために、特別学級への編入などがしにくい現実があります。しかし患児にとって、他の児童と同じように接せられるのは我々が考えている以上に負担であり、疾患による友人関係構築の問題から発達の過程でいじめを受けることは治療に非常にネガティブに働くとのことでした。つまり、問題行動をただ批判的・抑制的に対応するのではなく、認知機能の歪みなどの疾患特性を理解した上で対応することが重要とのことでした。紹介にあった患児では、通院治療の続行並びに養護学校への編入など患児の治療に悪影響を与えない環境を提供することで、患児の社会機能発達に貢献できたというものでした。

このようにご講演は疾患の基本的情報その他に、臨床・学校教育現場などで実際にどういった点に気遣うべきかにも踏み込んだ内容となり、そういったサポートの重要性を強調されました。その実践には医師だけでなく患児との接点を持つ全ての職種間での連携が必要であることが実感され、今後臨床の場で役立てたいと思える有意義なご講演となりました。

（滋賀医科大学精神科 松尾雅博）

葉も茎も

トマトはトマトを主張する
その香移りし手にもトマト

宮 チェ

「第4回 精神保健ボランティア全国大会 in しが」がこの秋、開催されます!

気がつけばボランティア

～精神に障害を持つ人たちが地域で当たり前で暮らしていけるために～

精神保健ボランティアの全国大会は今年で4回目です。精神に障害を持ちながらも地域で当たり前で暮らしていきたいと思う人たちの声に呼応し、“誰にとっても暮らしやすいまちづくりを”と、市民達が動き出したのが「精神保健ボランティア」です。

ですからこの滋賀大会の参加対象者は当事者・家族・ボランティア、専門職を含めた関係者など、〈精神に障害を持つ人たちが地域で当たり前で暮らしていけるために一市民としてなにが出来るか〉ということに関心のあるみなさまにご参加いただける大会です。是非ご参加ください。

〈第1日目〉平成14年11月26日(火)

午後1時～ピアザ淡海・午後6時～大津プリンスホテル

〈第2日目〉平成14年11月27日(水) 午前10時～びわ湖ホール

●講演/木田孝太郎氏(精神科医師) ●テーマ/「心をみまもる人のために」

【お問い合わせ】 滋賀メンタル友の会・事務局

滋賀県立精神保健総合センター内 TEL077-567-5010

会員数 平成14年7月31日現在

一般会員	個人会員	325名
	団体会員	45団体
賛助会員	個人会員	19名
	団体会員	10団体



◆事務局からのお知らせ◆

4月から、新しく事務局員として参りました、塚田結子です。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

協会事務局も、4月から精神保健総合センターで事務室を一部屋お借りして独立(?)いたしました。

新しいパソコン・プリンターもやって来て、会員の皆さんとネット上でお会いできる日も近いことでしょう。ネット上だけでなく、お近くから遠方から、皆様のお越しをお待ちいたしております。

(残念ながら、火曜日・第三月曜・その他若干の不定休をいただいております)

なお、FAX番号が変わりました。

→TEL/FAX 077-567-5250

伝言板

「こころの会」例会のご案内

- ◎日時 平成14年9月8日(日)
- ◎場所 県立男女共同参画センター 研修室B
- ◎内容 現在、悩んでいること、薬のこと、病気のこと等
- ◎問い合わせ先 「こころの会」 蒲生郡日野町木津192
TEL-FAX 0748-52-2918 (この会は、患者会です。)

日本笑い学会・笑ってメンタルヘルス滋賀支部設立記念の集い

- ◎日時 平成14年10月6日(日)午後2時～5時
- ◎場所 ビバシティホール 〒522-0044 彦根市竹鼻町43-1
JR琵琶湖線 南彦根駅東口 下車1分 (TEL)0749-27-5170
- ◎講演 森下伸也 金城学院大学教授
- ◎演題 笑い・ユーモアとメンタルヘルス
- ◎パフォーマンス メンタルヘルスに関わる人々による様々な楽しい試み
- ◎会費 300円
- ◎主催 日本笑い学会・笑ってメンタルヘルス滋賀支部
(略称:笑ってメンヘル滋賀)
- ◎後援 滋賀県精神保健福祉協会
- 連絡先 南彦根クリニック 〒522-0054 彦根市西今町138番地
TEL 0749-24-7808 FAX 0749-24-7807

編集後記

◆H14.5.25. ワールドカップに向けて盛り上がっている神戸の街の中、ベッカム率いるイングランドチームの到着と遭遇するという幸運に恵まれました。

◆その日、神戸で日本精神神経科診療所協会総会があり、詩人金時鐘氏の総会講演「違いの確認～共生の時代を生きる」を聴く機会がありました。多くの日本人は欧米人のおかしな日本語には寛容ですが、韓国人の少しおかしな日本語に不快感を表します。このように韓国は近くて遠い国であり続けました。「お互いの違いを知る」ことが少なく、「共に生きる」努力に不足がありました。

◆それにもかかわらず日韓ワールドカップはすばらしい盛り上がりを見せました。決勝トーナメントでの日韓の戦いには幾分かの違いがあったように思います。一方、韓国の準決勝進出には日本からも熱い応援が届けられました。両国の「違いの確認～共生の時代を生きる」確かな一歩になった気がします。

◆H14.7.20. NPO法人サタデーピア主催のシンポジウム、「障害者」って誰のこと?～何を「障害」って呼ぶんだろう?～がありました。「障害」は体や心の中にあるのではなくて、社会の中にあるという言葉が印象的でした。身体-知的-精神の3障害合同の施策が進められていく中で、それぞれの違いを確認するとともに、それを超えていく想像力の必要性を感じました。

◆「協会便り」の充実を期して、取材を積極的に行っていきたいと思ひます。今回は、甲西町とさわらび福祉会によるホームヘルプサービスの試みを取り上げさせていただきました。今後とも会員の皆様方の御協力をお願い申し上げます。

(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

この会報誌は、財団法人 滋賀県民福祉振興財団の助成のもと発行できました。